

9-4 スタッフの感想

水ロケット大会に係わる関係諸氏のコメントを紹介します。



清水RC 青少年奉仕委員会 柴田康雄

日立理科クラブの10周年記念事業(水ロケット飛ばしっこ大会)に共催という形で参加させて頂いた事は、丁度70周年という大きな節目を迎えた清水RCにとって大きな意味がありました。「共催」と銘打ちながら実態は理科クラブの企画力、組織力、実行力に学ぶ一方の「共催」でしたが、技術指導の為に事前研修、当日の技術指導、受付、大会進行業務、駐車場管理、RC会長賞の授与等参画させていただき70周年を機に奉仕活動を参加実践型に見直す契機となったのでは無いかと思います。

私個人としても、今回10年ぶりに理科クラブと活動をして共にして組織の充実と成長に驚きました。今後ますますの活躍と清水RCとの「共催」を祈念致します。



日立清水理科クラブ 小山英章

『3・2・1・発射！』の合図で二台の水ロケットが勢い良く青空を駆けた。日立清水理科クラブ10周年記念『親子水ロケット飛ばしっこ大会』は快晴無風の絶好条件に恵まれ、IAIスタジアム日本平で成功裏に終了した。思い起こせば第一回水ロケット大会から9年が経過したことになる。(2013/9)水ロケット準備段階の苦労も鮮明に蘇って来た。

そもそも望月さん(現副理事長)が日立工場理科クラブから水ロケット・製作ノウハウと発射台の提供を受けたことから始まる。

発射台は分解スケッチから部品図を起こし、部品加工発注・組立・調整工程を経た。実際に稼働させて見ると、色々な初期不具合が出るもので、調整・改善を求められた。特に発射効率向上のためのベース台廻りの改造・ランチャーの発射レンジ確保・圧縮空気注入の手動からポンプ化等があった。今日迄、大きな故障も無いのは望月さんによるメンテナンスのお陰であります。多謝！